

Commune

Communeは過去にさかのぼって評価をすることで、「市民にとって本当に役に立ったプロジェクト」に対して助成金を分配する機関です。助成先の決定には人々によるQuadratic Voting + 専門家による熟議を採用しています。

行政府の役割は市場原理では解決できないものをマネジメントすることのみ

1. 過去にさかのぼって評価: 未来を予想するより、起こったことを評価する方が意見が分かれにくい
 2. 市場原理とは異なる合意形成: 現在多くのDAOガバナンスで採用されている価格と需要、計算とサイコロによる市場原理ではなく、熟議をベースにした民主主義的な合意形成をベースとします
 3. 一人一票: シビル耐性アルゴリズムを備えたIdenaを使って認証することでオンラインでの一意のアイデンティティに基づく、グローバルな民主主義の統治メカニズムを設計します
-

Web3の世界で行政府を構築するために必要な特性

- | | |
|---------------------|--------------|
| - 一人につき、1つのID | - 熟議の場 |
| - 匿名性 | - 合意形成の線引き |
| - 第三者認証機関による検証を行わない | - 執行権の監視 |
| - 適切なインセンティブの付与 | - 分散化された民主主義 |
-

助成金分配の最適化

遡及的に公共財へ資金を分配することによって、公共財にExitを提供します。具体的には、役に立ったと考えるプロジェクトの推薦 + 精通した有識者たちによる熟議によって、支援先を決定します。

CommuneのモデルとなるRetoroactive Public Goods FundingはOptimismとVitalikにより提案され、一度実験的に導入されています。

その取り組みの中でVitalikは“technocrats are smarter but the crowd is more diverse.”（技術者は適切な判断を下すことができるが、群衆はより多様な判断をすることが出来る）とコメントしました。

ビジョン

- 合意形成の線引きを可視化するPol.isやガバナンス監視のDecidimと統合
- 執行権の監視
- 助成金分配を3ヶ月毎に行う
- \$10Mの総助成額を2025までに超える